

# 鳥取県における少子化対策等に関するアンケート調査結果（概要）

平成22年1月14日  
福祉保健部子育て支援総室

## 【アンケートの概要】

対象 1,800人 回収数 1,274人(回収率70.8%)  
回答者 男82人(6.4%) 女1,192人(93.5%)  
年齢構成 25~29歳 9.3% 30~34歳 26.8% 35~39歳 29.9% 40~44歳 18.3% 45~49歳10.2%  
調査期間 平成21年7月~9月  
調査方法 地域子育て支援センター、保育所、幼稚園、小・中・高等学校を通じ、子どもの保護者の方に配布  
回答者の就労状況 就業者(女)72%(内訳:勤め人(常勤)38%、自営業6%、パート・アルバイト28%)

## 結果まとめ

子育て世帯は子育てに関し、「子育ての経済的負担」と「仕事と子育ての両立」に特に負担感をもっており、「予定子ども数」と「理想子ども数」の数の差にも表れている。

子育ての経済的負担感は、80%を超える世帯で感じており、約5割の方が経済的負担が少なければさらに子どもをもってもよいと考えている。

負担感の解消のために、保育サービス(放課後児童クラブ含む)の充実や、仕事と生活の両立の推進等を期待されている。

現在の地域の子育て支援サービス、保健医療サービス等については、一定の満足度が得られているが、環境が十分に整っていないと感じている者も少なくない。

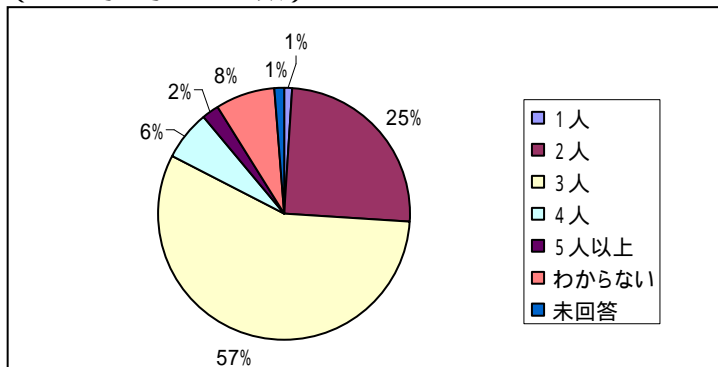
少子化の要因として、「未婚化・晩婚化」「夫婦の出生力の低下」「若者の県外流出」の3点があげられるが、共通する課題として、経済的な問題や就労環境、仕事と育児の両立のための職場環境といった雇用環境の整備があげられる。

# 1 理想的な子どもの数

- ・理想的な子どもの数は65%が3人以上、26%が2人以下であるが、現在の子どもを含め、将来にもつ子どもの数は2人以下が45%、3人以上が41%と「予定子ども数」と「理想子ども数」に大きな開きがある。
- ・将来的にもつ子どもの数が理想的な子どもの数より少ない主な理由は、子育てに関する経済的負担(34%)、仕事と子育ての両立の困難性(20%)、育児の心理的・肉体的負担(13%)

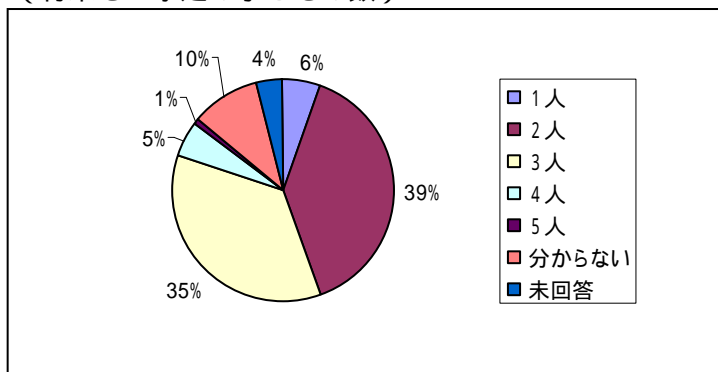
(1) 理想的な子どもの数と将来もつ子どもの数 ~理想は3人が最多、現実には2人が最多~

(理想的な子どもの数)



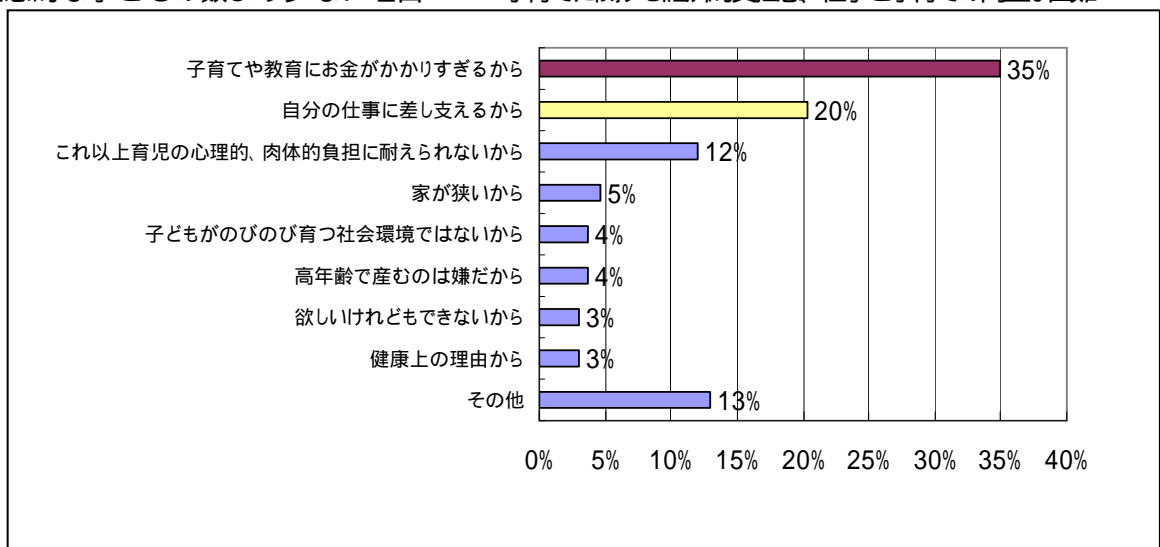
(問11 回答件数 1,274件に対する割合)

(将来もつ予定の子どもの数)



(問12 回答件数 1,274件に対する割合)

(2) 理想的な子どもの数より少ない理由 ~子育てに関する経済的負担感、仕事と子育ての両立が困難~

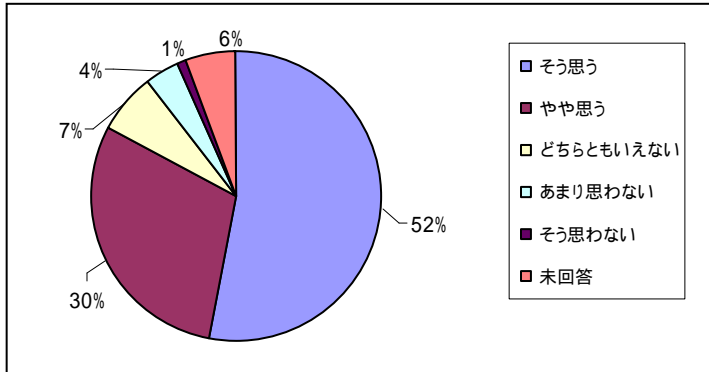


(問13 回答件数 117件に対する割合)

## 2 子育ての経済的負担感

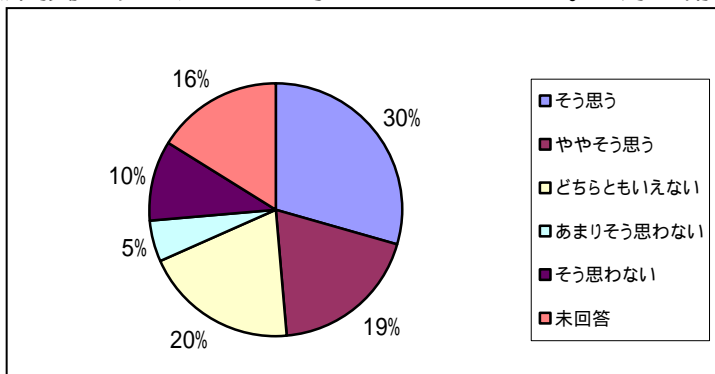
- ・子育ての経済的負担感は、80%を超える世帯で感じており、特に高校、大学時の教育費と保育・教育費用で高くなっている。
- ・約5割の方が経済的負担が少なければさらに子どもをもってもよいと考えている。

(1) 子育ての経済的負担が大きいと感じるか。～80%を超える世帯で経済的負担感～



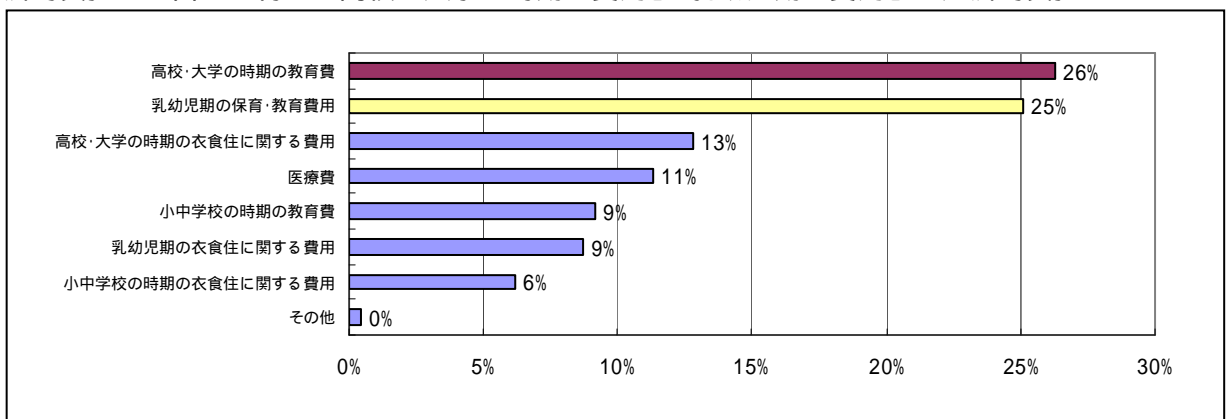
(問 17 回答件数 1,274 件に対する割合)

(2) 経済的負担が少なければさらに子どもをもってもよいか。～約5割が「そう思う」～



(問 17-2 回答件数 1,274 件に対する割合)

(3) 経済的負担の理由 ～特に「高校・大学の時期の費用」「乳幼児期の費用」が経済的負担～

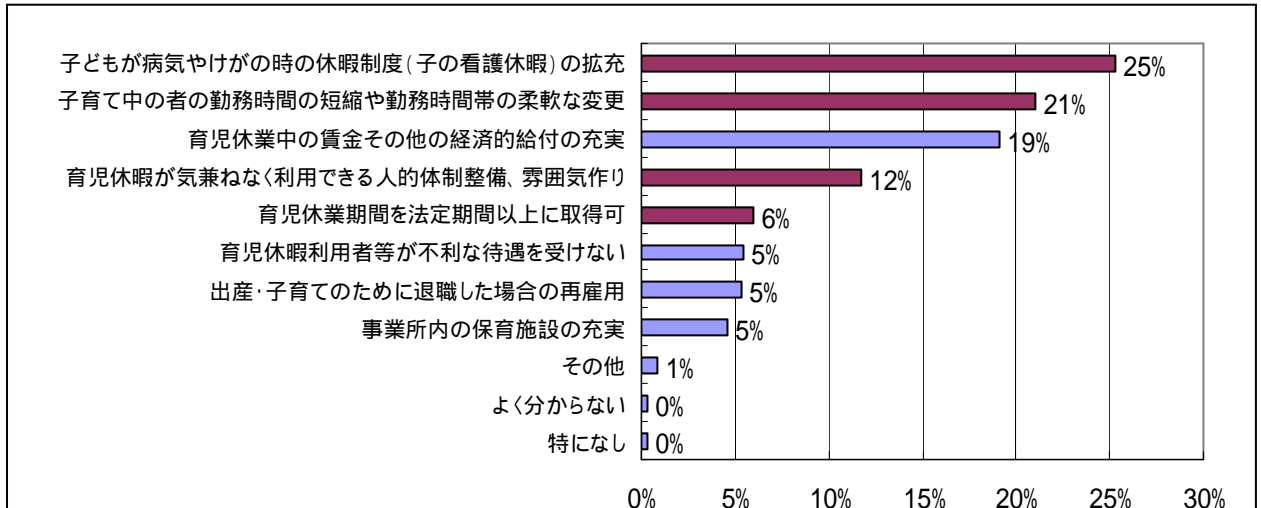


(問 17-1 3項目まで選択可 回答件数 1,472 件に対する割合)

### 3 仕事と子育ての両立

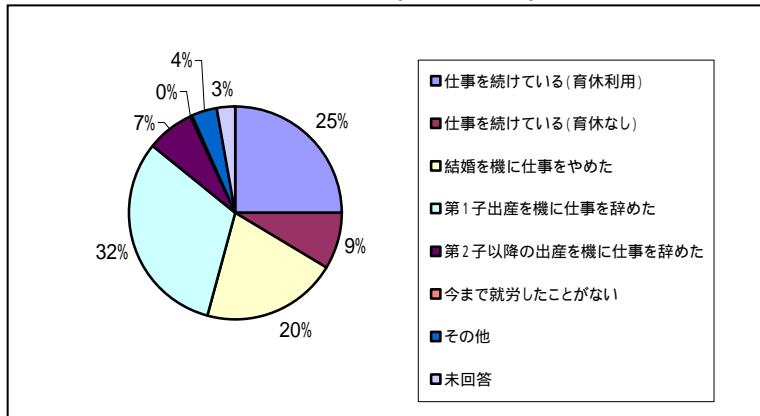
- ・仕事と子育ての両立については、休暇制度の拡充や、勤務時間の短縮や勤務時間帯の柔軟な変更といった時間的な配慮を主として求める一方、育児休業中の経済的給付の充実についても必要な取組みと考える者が多い。
- ・女性のうち、結婚や出産を機に5割の方が仕事をやめており、家事・育児への専念希望や仕事と家事・育児の両立が困難という理由が多い。

#### (1) 仕事と子育ての両立のために職場で進めるべき取組み ~ 休暇制度、勤務時間の短縮等の時間的な配慮を期待~



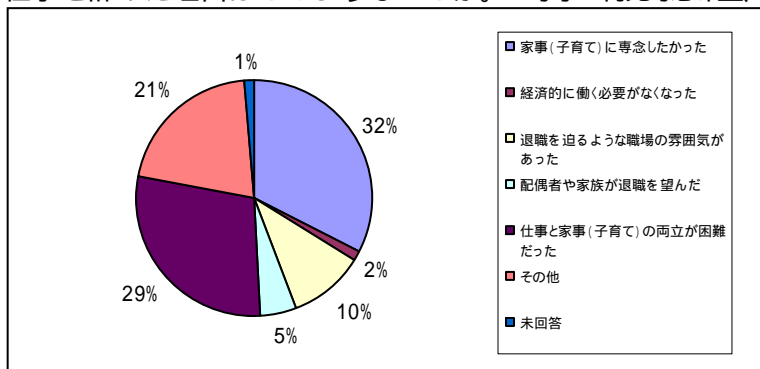
(問 23 3項目まで選択可 回答件数 3,379 件に対する割合)

#### (2) 結婚や出産を機に仕事を辞めた(退職した)経験があるか。~ 5割を越える方が結婚、出産を機に退職~



(問 25 回答件数 女性 1,192 件に対する割合)

#### (3) 仕事を辞めた理由はどのようなことか。~家事・育児専念希望、仕事と家事・育児両立困難が各3割~

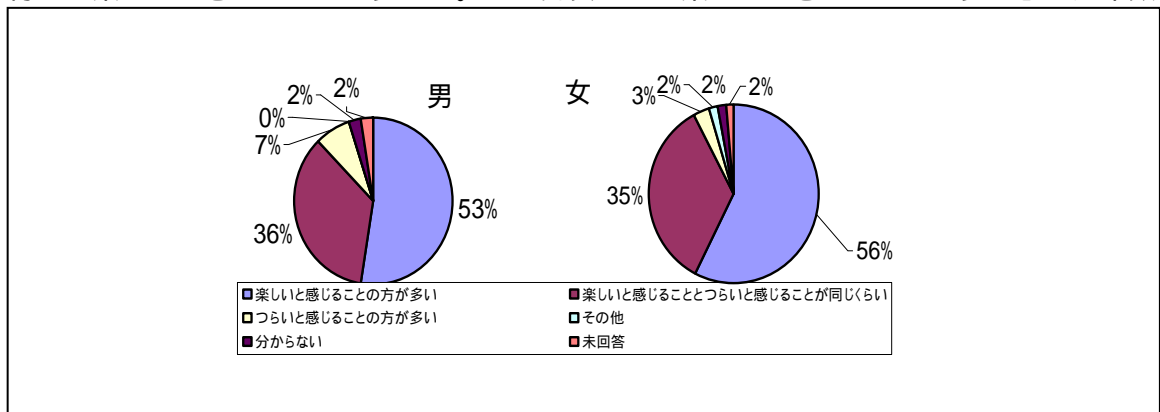


(問 25-1 回答件数 女性 706 件に対する割合)

## 4 子育ての環境

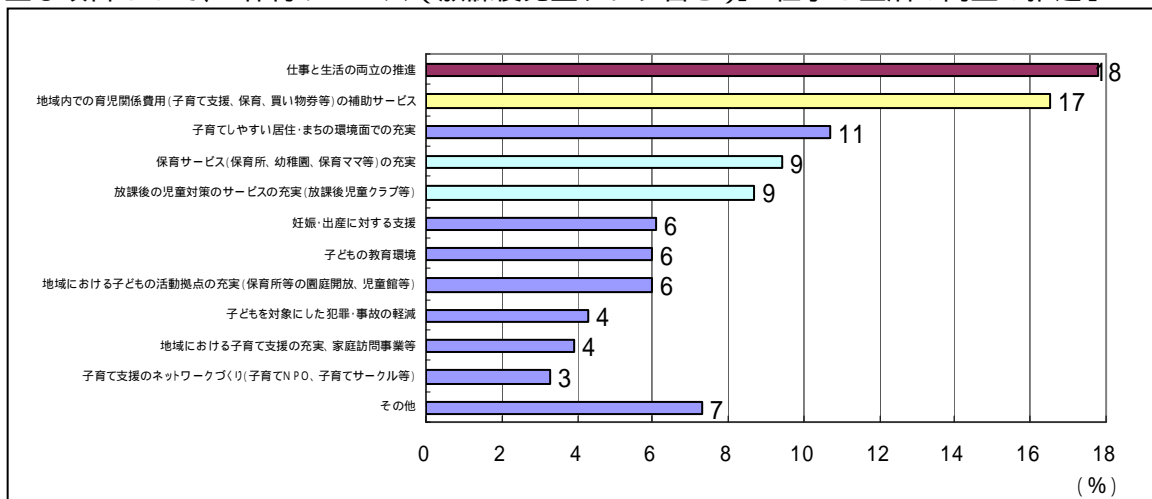
- ・過半数が子育てを楽しんでいると感じることが多いと回答し、つらいと感じる方が多い者は比較的少数であり、子育てを楽しんでいる保護者が多い。
- ・子育ての楽しさやつらさの解消につながる主な項目としては、「保育サービス（放課後児童クラブ含む）」、「仕事と生活の両立の推進」、「地域内での育児関係費用の補助サービス」。
- ・9割を超える方が気軽に相談できる人がいると回答し、相談相手は親や家族、友人や知人が多い。
- ・鳥取県の子育て環境のよさとして、自然環境のよさ、治安のよさなどが評価されている。また、親の支援が受けやすいという点をあげている方も多い。

(1) 子育てを楽しんでいると感じることが多いか。 ~男女とも「楽しいと感じることが多い」が過半数~



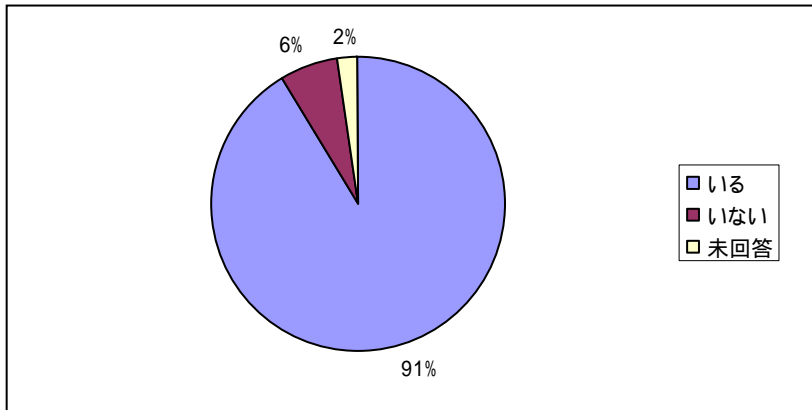
(問 14 回答件数 男性 82 件、女性 1,192 件に対する割合)

(2) どのような支援があれば「子育ての楽しさ」や「子育てのつらさの解消」につながるか。  
~主な項目として、「保育サービス（放課後児童クラブ含む）」「仕事と生活の両立の推進」~



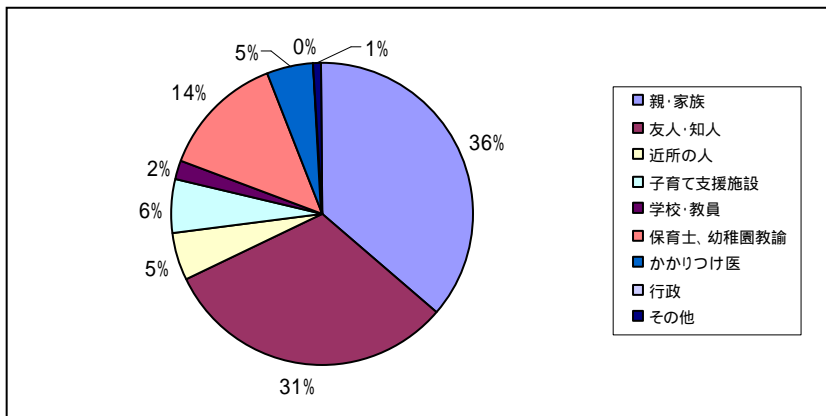
(問 15 3項目まで選択可 回答件数 3,190 件に対する割合)

(3) 子育てについて気軽に相談できる人がいるか。～9割を超える方が「いる」と回答～



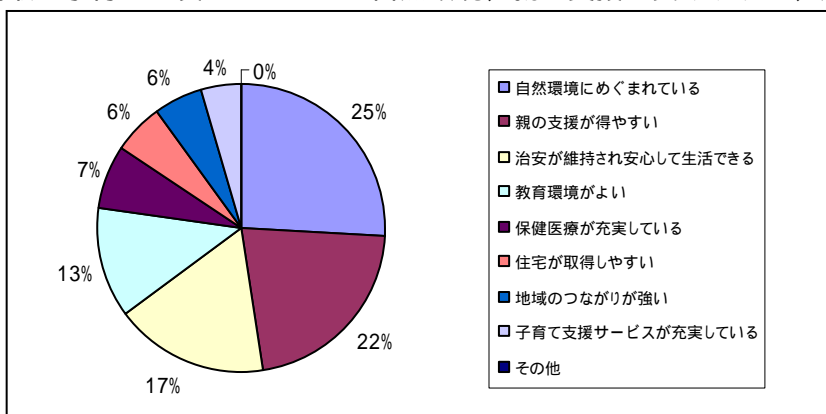
(問16 回答件数 1,274 件に対する割合)

(4) 気軽に相談できる先は誰(どこ)か。～相談相手は主に親・家族、友人・知人～



(問16 複数項目選択可 回答件数 1,667 件に対する割合)

(5) 鳥取の子育ての良いところ ～自然環境、親の支援の受けやすさ、治安のよさ～

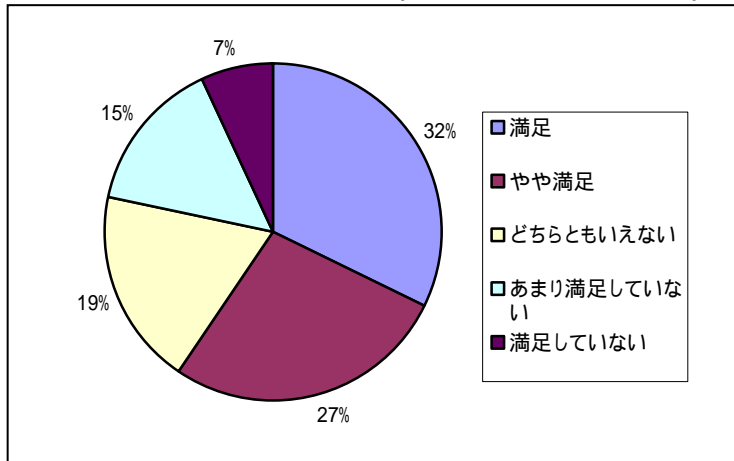


(問26 回答件数 924 件に対する割合)

## 5 地域の子育て支援サービス

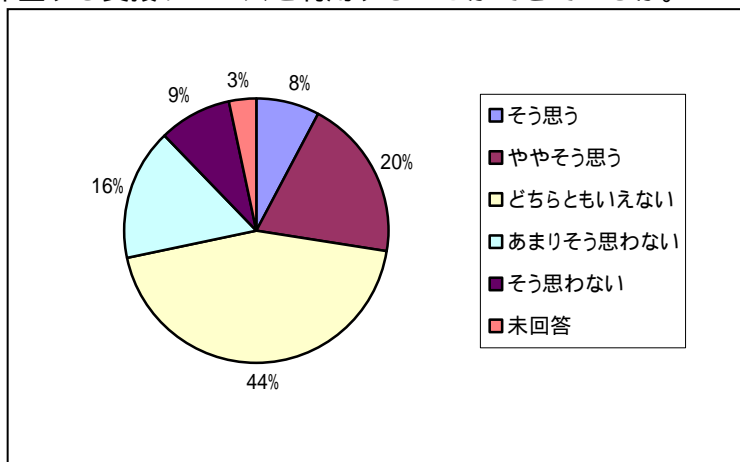
- ・希望するサービスの利用のしやすさについては、「どちらともいえない」「そう思わない」が合わせて約7割で、利用しやすい環境が十分整っていないと感じている者も少なくない。
- ・一方、利用者においては、約6割の方が満足していることから、利用に対してはハードルがあるものの、実際に利用していただくと、サービス内容等に対して一定程度、満足していただけることがうかがえる。

(1) 利用している地域子育て支援サービス(利用時間、サービス内容等)に満足しているか。～約6割が満足～



(問 18-2 回答件数 232 件に対する割合)

(2) 希望する支援サービスを利用することができるか。～「どちらともいえない」が半数近くで最多～



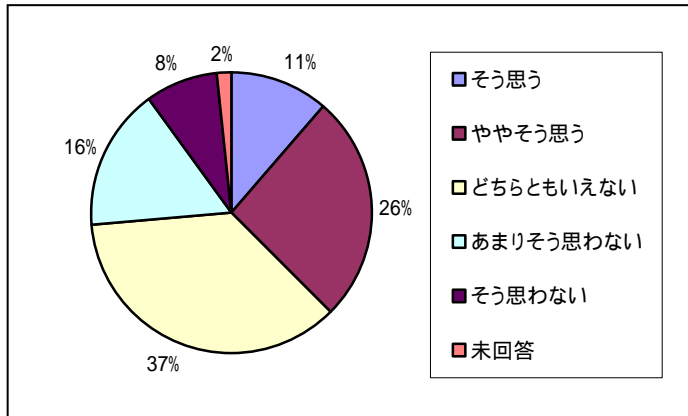
(問19 回答件数 1,274 件に対する割合)

## 6 保健・医療サービス

- ・妊娠・出産の医療体制に関しては、37%の方がサービスが整っていると考える一方、「どちらともいえない」が37%、「そう思わない」が24%と合わせて約6割。
- ・子どもの医療体制に関しては、56%の方が環境整備に対して満足しており、妊娠・出産と比較すると環境整備に対する満足度が相対的に高い。

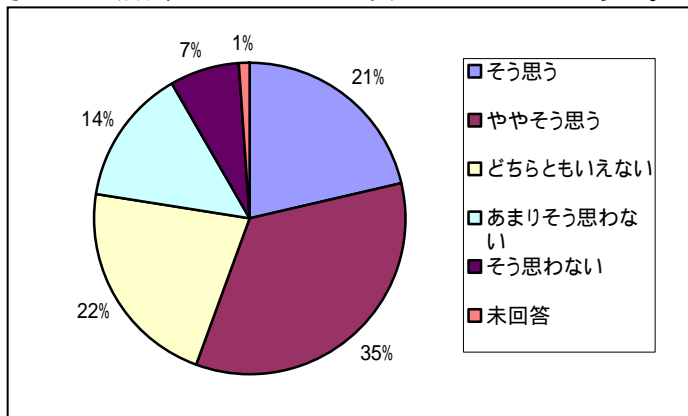
(1) 安心して妊娠・出産できるための支援や保健医療サービスが整っていると思うか。

～「そう思う」「どちらともいえない」が37%ずつ～



(問20 回答件数 1,274件に対する割合)

(2) 子どもが病気になったときも安心して思うか。～過半数の56%が「そう思う」と回答し最多～



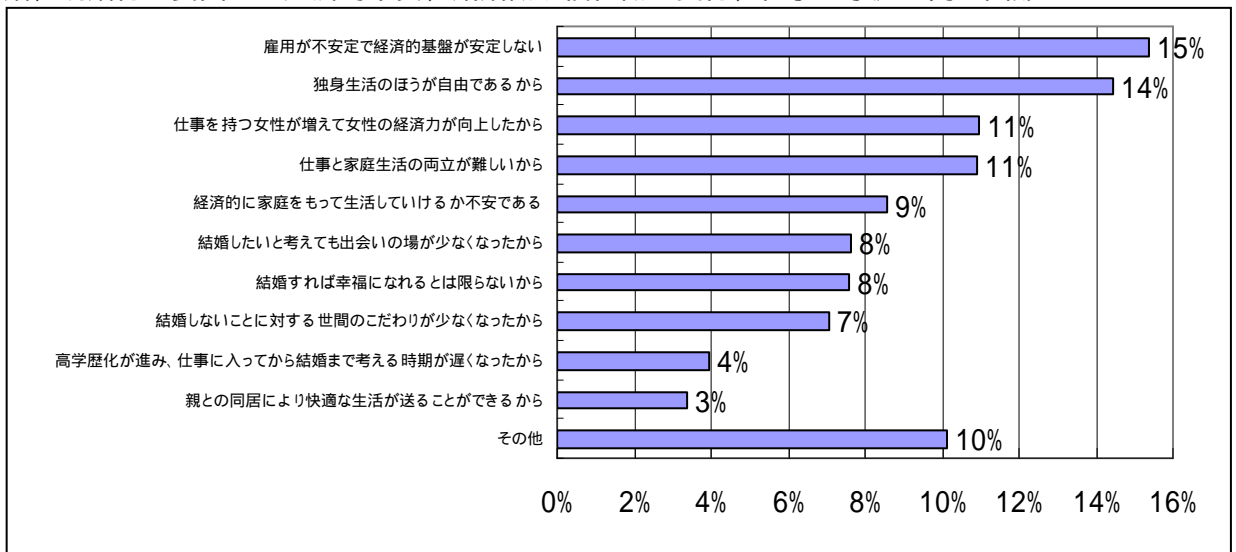
(問21 回答件数 1,274件に対する割合)



## 7 少子化の要因

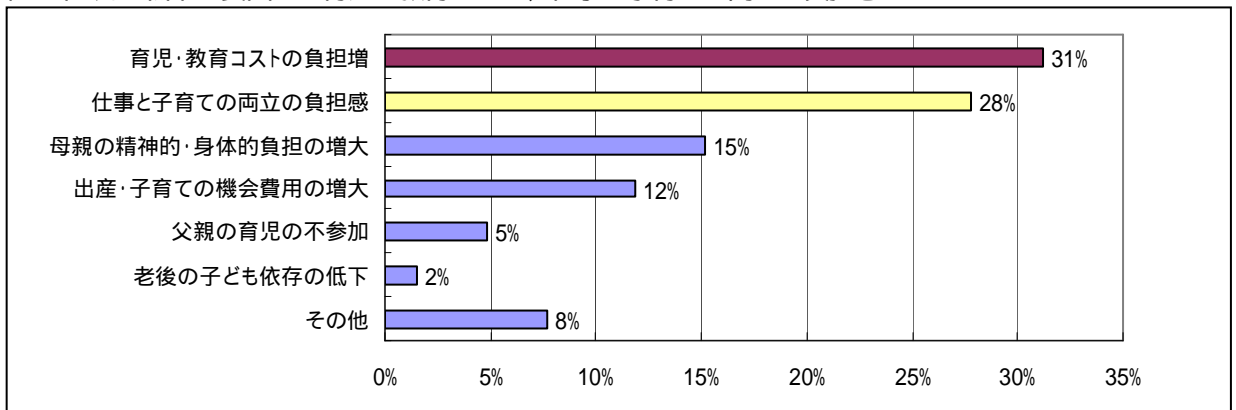
- ・未婚化、晩婚化の主な要因は、県内経済の冷え込みや非正規雇用の増加による経済的基盤の不安定さ、「独身生活の方が自由」といった結婚観や価値観の変化、仕事と家庭の両立困難。
- ・夫婦の子ども数の減少の主な要因は、育児・教育コストの負担増や、仕事と子育ての両立の負担感等。
- ・若者が県外へ流出する要因は、雇用環境や進学先の不足。
- ・少子化の要因に共通する課題として、経済的な問題や就労支援、仕事と育児の両立のための職場環境といった雇用環境の整備があげられる。

### (1) 未婚、晩婚化の要因 ～経済的不安、結婚観や価値観の変化、仕事と家庭の両立困難～



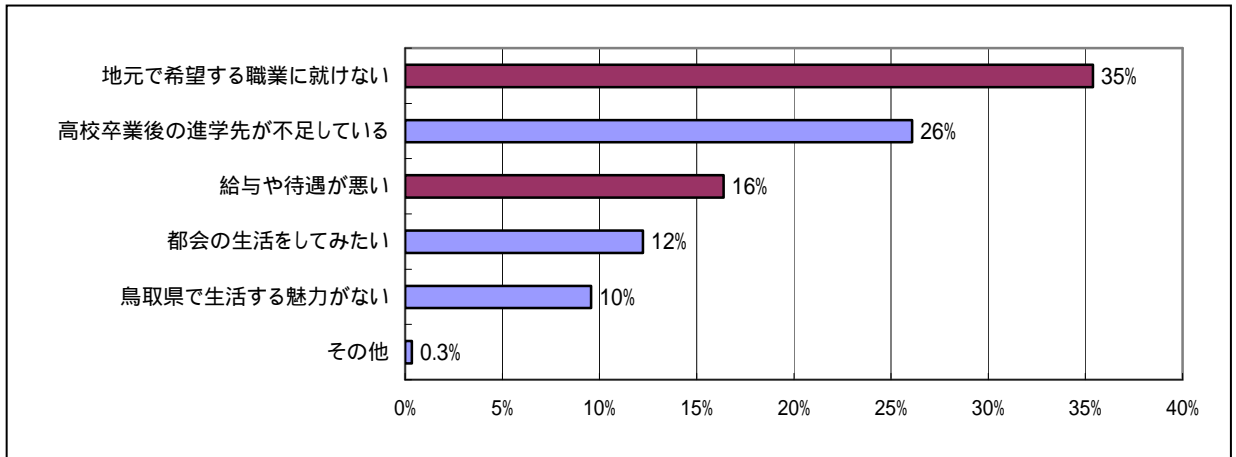
(問27 2項目まで選択可 回答件数2,561件に対する割合)

### (2) 夫婦の出生力の低下の要因 ～育児・教育コスト、仕事と子育ての両立の負担感～



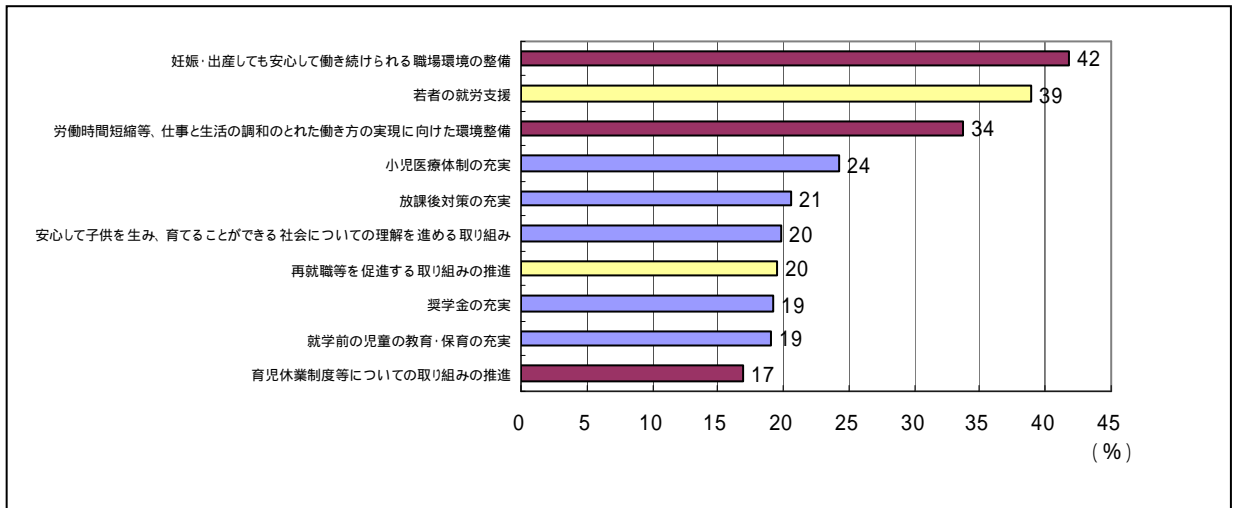
(問27 2項目まで選択可 回答件数2,200件に対する割合)

( 3 ) 県外流出により若者が少ないことの要因 ~雇用環境が51%、進学先の不足が26%~



( 問 27 2項目まで選択可 回答件数 2,320 件に対する割合 )

( 4 ) 少子化対策として県に最も実現して欲しい項目 ~育児と両立できる職場環境の整備、就労支援~



( 問 28 3項目まで選択可 回答数 1,274 件に対する各項目の件数の割合 )